

農作物技術情報 第7号 水 稲

発行日 平成30年 9月 27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 県内全域で刈取り作業が進んでいます。籾の黄化状況により刈取適期を判定し、刈取り作業を進めましょう。
- ◆ 倒伏圃場では、作業速度をできるだけ遅くし、周囲と比べて品質が劣ることが見込まれる場合は刈分けにより品質確保に努めましょう。
- ◆ 日没が早まる時期なので、作業は計画的に進め、安全な農作業を心掛けましょう。

1 適期刈取りの励行

今年は7月が高温多照で経過したことから出穂盛期は平年よりも3日ほど早まりました。8月は高温と低温が交互におとずれ、低温の程度により登熟スピードに地域差が生じています。

北上川流域および沿岸南部は、登熟スピードは平年並で経過し、刈取り時期は出穂が早まったことにより平年よりも早まっています。刈遅れは着色粒や胴割粒等の発生を増加させ、品質低下につながりますので、刈り遅れないようにしましょう。

北部、特に沿岸北部では登熟スピードは平年並からやや遅れていますので、刈取り時期も平年並からやや遅れています。刈取適期の判定は、圃場一筆ごとに籾の黄化状況を丁寧に確認しましょう。

また圃場がぬかるんでいる場合は、地表面の排水により地耐力の向上に努めましょう。倒伏圃場あるいは倒伏している部分では、作業速度をできるだけ遅くし、丁寧に刈取りましょう。水口付近などで周囲と比べて登熟が遅れている部分や倒伏しているところなどは、品質確保のために刈り分けしましょう。

2 乾燥・調製の留意点 仕上げ水分は15.0%以下を徹底しましょう！

(1) 胴割れ粒の発生防止

- ・ 1時間あたりの乾燥速度（水分低下）は0.8%以下とし、送風温度に十分に注意します。急激な乾燥や過乾燥は避けましょう。
- ・ 自然乾燥の場合、乾燥期間は2週間以内とし、乾燥が不十分な時は乾燥機で仕上げます。

(2) 籾すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ・ 玄米水分15.0%以下の適正水分で籾すりを行います（肌ずれ米の防止）。
- ・ ロール間隔は、籾の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）に調節します。
- ・ 脱ぶ率は85%を基準（80～90%）とします。

(3) ライスグレーダー粒選別

- ・ 出荷製品となる玄米は、LL（1.9mm）の篩い目を使用し、整粒歩合80%以上に仕上げます。

3 農作業安全

日没が早まる時期ですので、計画的に作業をすすめ、農作業安全を心掛けましょう。

ア 圃場での移動、運搬の際の転倒事故や追突事故には十分注意します。

イ コンバインにワラ等が詰まった際は、必ずエンジンを止めてから作業を行いましょう。

- ウ 夕方に事故の発生が多いので、焦らず、慎重な作業を心がけましょう。
- エ 反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止しましょう。

次号は10月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

農作業 心のゆとりで 事故防止

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 平成30年 9月 27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 大豆 台風、大雨による茎疫病や黒根腐病、斑点細菌病等が発生しています。圃場観察をこまめに行い、成熟状況の確認、雑草の抜き取り、圃場排水の徹底など、収穫作業に向けた準備をすすめましょう。
- ◆ 小麦 小麦の播種適期を迎えています。適期を逃さず作業を行い、生育量の確保に努めましょう。条件が整わず播種が遅れた圃場では、播種量を増やし、目標株立数の確保に努めましょう。

大豆

1 生育の状況

開花期は平年並～やや早まったところが多く、概ね好天に恵まれ子実の肥大は順調です。しかし、8月～9月の台風による大雨や強風に数回見舞われ、倒伏や茎葉の折損などが生じている圃場も見られます。この影響もあり、べと病、葉焼病や斑点細菌病などが各地で見られています。

また湿害に伴って発生しやすい茎疫病、黒根腐病の発生が見られるようになってきました。

今後とも台風等の気象災害に備え、スムーズに収穫作業にはいれるよう、排水対策をもう一度確認してください。

2 収穫作業の前に

(1) 台風対策

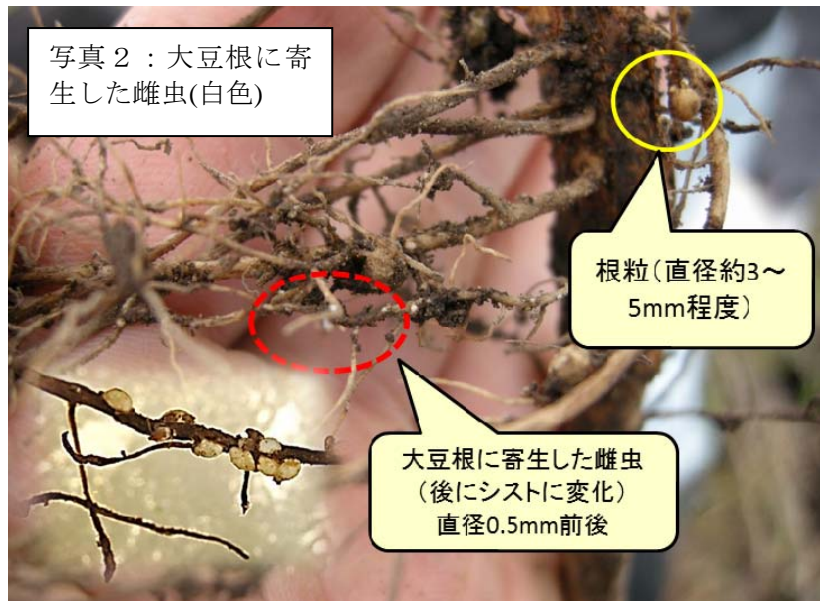
この時期は台風が発生しやすいので、気象情報を確認し、状況に応じて排水対策、施設の保守点検など、事前事後対策を徹底してください。

(2) シストセンチュウ被害の確認

収穫前に圃場を観察し、湿害生育不良株（地上部が退緑、黄化等）が部分的に局在し、畦に沿って広がっていないかなどを確認します。湿害を受けていないにも関わらず、このような症状が見られる場合はシストセンチュウの可能性ががあります。株を引き抜いてみて、シスト（卵の詰まった殻）の有無を確認してください。発生が確認された場合は、汚染土壌の拡散を防止するため農業機械等の洗浄を徹底するとともに、汚染程度の高い圃場の収穫は後に回します。

写真1：ダイズシストセンチュウの発生圃場（囲み部分に発生）





(3) 除草

アメリカセンダングサ、シロザなどの大型雑草は、収穫時に汚損粒の発生原因となるので、収穫前に取り除きましょう。また、イチビなどは種子発生量が極めて多いので確実に搬出しましょう。

(4) コンバインの清掃・調整

収穫作業の前には必ず清掃点検を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきましょう。

また、土をかみ込んだ時など収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきましょう。

(5) 乾燥・調製施設の確認

乾燥・調製施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、圃場の様子を踏まえた上で、刈取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備をすすめましょう。

3 収穫

(1) 成熟期の判断

適期収穫の第一歩は、成熟期を正確に判定することです。成熟期は次の2つから判断します。

- ア 圃場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている
- イ 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

莢を振ってカラカラ音がするようになったら、数カ所で実際に莢をむいて確認します。成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表1 成熟期からコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期からコンバイン収穫適期までの日数		収穫(適)期間
	早限	晚限	
ユキホマレ	7～10日後	20～25日後	10～18日
ナンブシロメ	10日後	20～25日後	10～15日
シュウリュウ	10日後	20日後	10日
リュウホウ	10日後	20日後	10日
青丸くん	10日後	16日後	6日間前後

※刈遅れると「リュウホウ」はしわ粒が発生しやすくなり、「青丸くん」は子実の色抜けが生じることから、収穫適期間になったら速やかに収穫します。

※シュウリュウは成熟後、やや裂莢しやすいので収穫適期に達したら速やかに収穫しましょう。

(2) コンバイン収穫のポイント

ア 収穫時の茎水分は 50%以下

茎水分が 50%を超えると、こぎ胴で茎が揉まれ茎汁が発生し、汚損粒の発生原因となります。このため、青立ちした株は必ず抜き取ってください。茎水分 50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるときです。

イ 収穫時の子実水分は 18%以下

収穫時の子実水分は、損傷粒の発生に大きく影響します。子実水分が 20%以上と高すぎる場合は、つぶれ粒を主体とする損傷粒が多くなり、15%以下と低すぎる場合は、裂傷や割れ豆などの損傷粒が多くなる傾向があります。

ウ 収穫の時間帯は茎葉がよく乾いた頃

晴れた日の場合、午前 10 時過ぎ～午後 5 時頃までが目安です。

4 乾燥

(1) 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低下させるよう、送風温度等に留意しましょう。

(2) 被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒（皮切れ粒）は、収穫前に大豆の生理的要因により種皮が部分的に裂けて生じるもの（例：莢数不足あるいは刈遅れによる過熟が発生するもの）と、高温通風など乾燥調整時の急激な乾燥によって生じるものに大別されます。

しわ粒は、子実のへその反対側の子葉組織と種皮がギザギザになる「ちりめんじわ」と、種皮が吸湿により亀甲状に隆起する「亀甲じわ」に大別されます。

「ちりめんじわ」は主に、生育後半の栄養凋落が激しいほど発生しやすく、この時期の栄養状態の改善が対策となります。

「亀甲じわ」は子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因で生じますので、刈遅れを避けることが対策につながります。

5 その他

(1) 紫斑病対策

成熟期以降、刈取りが遅れると紫斑粒が増加しますので、刈遅れを避けることが重要です。

また、ビーンカッターや手刈りで収穫した場合、速やかに脱穀・乾燥を行いましょう。島立てやハウス乾燥中の刈株も、朝露や湿気などにより紫斑粒が徐々に増加することが知られています。

小麦

1 小麦の播種適期

小麦の安定多収の実現のためには、越冬前に十分な分けつを確保しなければなりません。例年、播種が遅れて生育量が足りないまま越冬する小麦圃場が多く見受けられます。

小麦も稲と同様に、主茎の葉齢によって発生する分けつ数が決まっていますので、越冬前の主茎葉齢は 4 葉以上、分けつは 1～2 本を確保することを目標にしましょう。

地帯別の播種適期を表 2 にまとめました。適期を逃さず播種作業を行い、越冬前に生育量を確保しましょう。

また、春期に降水量が少なく、干ばつ状況となる場合があります。干ばつ被害を軽減させるためには、根張りをよくすることが重要です。根張りを良好にする方法として、①晩播を避ける、②浅播きを避ける、③過湿条件で播種を行わない、④深耕する、⑤有機物を施用する、⑥踏圧を適切に行う、などが挙げられます。

ナンブコムギは、**縞萎縮病**に弱いいため、例年縞萎縮病の発病が見られる圃場で作付けをすると、**播種時期の気温が高いほど翌春の発病程度が高まり、減収**します。このような圃場でやむを得ず連作をする場合には、**適期内でできるだけ晩播**とすることが被害軽減に有効です。しかし、適期を過ぎた晩播は根張りが劣り、湿害や干ばつ害を受けやすくなりますので注意して下さい。

表 2 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期（月・日）		適期日数 （日間）
	早限	晩限	
高標高地	9.15	9.25	11
県北部	9.15	9.30	16
県中部及び沿岸北部	9.20	10.5	16
県南部	9.25	10.20	26

2 もしも適期を逃したら・・・播種時期が遅れたときの考え方

- (1) 播種適期を守るのが基本ですが、圃場条件が悪い場合、無理に播種しても出芽不良を招きますので、その場合は作業を見合わせましょう。
- (2) 適期が過ぎてしまった場合は、各地帯の播種晩限から1週間遅れるごとに10%播種量を増やし、目標株立数を確保できるよう努めましょう(表3)。

表3 品種別の播種量と目標株立数

品種名	播種量 (kg/10a)		目標株立数 (株/m ²)	千粒重 (g)
	ドリル播	全面全層播		
ナンプコムギ	4~6	5~8	75~120	41
ゆきちから	6~8	8~10	120~160	39
ネバリゴシ	6~8	8~10	130~170	37
銀河のちから	6~8	8~10	125~170	38
ファイバースノウ (大麦)	6~8	8~10	130~170	38

注) 播種粒数に対して株立率を80% (前面全層は64%) として算出。

3 基肥

麦類の施肥は、追肥の占める割合が高く、基肥は越冬前の生育量を確保するために施用します。表4に、麦類の標準的な基肥施肥量を示しました。

(1) 補給型施肥基準

表4とは別に、土壌改良目標値を満たした圃場での施肥管理は、「補給型施肥基準」を適用することができます。補給型施肥とは、「圃場からの収穫物による肥料分の持ち出し量」と浸透水による「土壌養分の溶脱量」を施肥によって補給する、という考え方を基に作られた施肥法です。詳しくは最寄りの農業改良普及センターにお問い合わせください。

表4 麦類の標準的な基肥施肥量
(成分 kg/10a)

窒素 (全域)	リン酸		カリ (全域)
	中南部 転換畑	中北部 普通畑	
4~6	10~15	15~20	10~12

※水田から転換して初年目、2年目の「ゆきちから」の基肥は茎数確保のため、窒素6 kg/10a とする。

4 雑草防除

播種後は、必ず除草剤を散布します。草種にあわせた除草剤を選び、ラベルを確認して散布時期や使用量を決定しましょう。

5 排水対策を万全に

圃場内の明渠は、播種後に施工することも可能です。十分な準備ができない場合、播種後の施工も想定しておきましょう。

写真3 圃場内小明渠の施工例



次号は10月25日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日~11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**農作業 ところのゆとりで
事故防止**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 平成30年 9月 27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 台風対策 排水対策と施設の保守点検を万全に
- ◆ 露地きゅうり 重要病害に対する防除の徹底、次年度へ向けた対策実施
- ◆ 雨よけトマト 保温の徹底と裂果の発生防止
- ◆ ほうれんそう 適切な温度管理と病害虫防除の徹底
適期播種と適切な温度管理による品質向上（寒締めほうれんそう）

1 生育概況

- (1) 露地きゅうりは台風や気温低下による影響と、褐斑病や炭疽病等の病害の発生により、収穫終了となる圃場が増えています。
- (2) 雨よけトマトは気温の低下により果実の着色が緩慢となっています。病害虫では、灰色かび病や葉かび病、うどんこ病などが発生しています。
- (3) ピーマンは雨よけハウス・露地ともに気温低下に伴い果実肥大が緩慢になり、赤果やひび割れ果等の発生が見られています。病害虫では、斑点病とタバコガ類の発生が広く見られています。
- (4) 雨よけほうれんそうは概ね順調に生育しています。害虫は、アブラムシ類、シロオビノメイガ、ヨトウムシ、ケナガコナダニ類の被害が散見されていますが、目立った病害の発生は見られません。
- (5) ねぎは、一部で台風の影響による曲がりが見られますが、概ね順調に生育しています。病害虫では、べと病、さび病、黒斑病、葉枯病、軟腐病、ネギコガ、アザミウマ類等の発生が見られますが、葉枯病の黄色斑紋病斑の発生が増加しています。
- (6) キャベツは概ね順調に出荷が続いていますが、一部でタマナギンウワバ等の被害が見られます。レタスの定植は終了し、概ね順調に生育しています。病害虫は、斑点細菌病、腐敗病、べと病、灰色かび病の発生が見られます。

2 技術対策

(1) 台風対策

今年は台風が多く発生し、全国各地で大きな被害を出しています。例年10月は台風の発生が多い時期となりますので、今後とも気象情報を確認し状況に応じて排水対策、施設の保守点検など、事前事後対策を徹底してください。技術内容の詳細については、平成30年9月3日発行の「号外台風対策」等を参照してください。

(2) 露地きゅうり

気温も低下していることから強い摘心は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に止めます。摘葉は病葉・古葉・黄化葉等を中心に行い、草勢維持を図りましょう。

毎年9月以降、べと病や炭疽病、褐斑病等の蔓延により枯れ上がる圃場が見られています。多発圃場では、収穫残さや支柱、番線、灌水チューブなどに付着した病原菌が翌年の発生源となりますので、栽培終了後は速やかに残さの片づけや資材の消毒を実施しましょう。

また、本年度株が急に萎れる症状が見られた圃場では、収穫終了後速やかに根を掘り上げて、キュウリホモプシス根腐病の感染がないか確認しましょう（写真1）。疑わしい症状が見られた場合や、次年度の作付けに不安がある場合は、最寄りの指導機関に連絡し、残さ診断を受けることをお勧めします。

今年萎れが見られていない圃場においても、被害リスクの早期把握のため、残さ診断を積極的に行い次作に備えましょう。

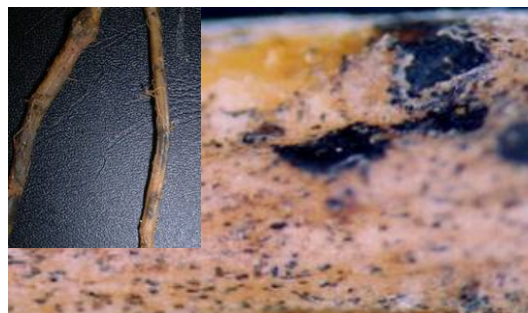


写真1 ホモプシス根腐病による根の状態
（左上：黒変症状 右：200倍に拡大）

（3）雨よけトマト

急激に気温が低下すると裂果の発生が増加してきますので、夜間の保温に留意してください。この際、ハウスの密閉により湿度が高くなり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、防除を徹底してください。

（4）ピーマン

雨よけ栽培では、夜間の保温により生育温度の確保に努めますが、夜間湿度の上昇に伴い灰色かび病の発生が懸念されるので、防除を徹底しましょう。

全体的に赤果や黒変果、ひび割れ果の発生が増えています。特に下垂している枝に着生している果実は早めに除去し、草勢維持に努めて下さい。

また、露地栽培では、斑点病の発生と腐敗果が増加する恐れがありますので、降雨前後に殺菌剤を散布して発生低減を図りましょう。

（5）雨よけほうれんそう

年内に収穫するため、もう1作播種することを検討しましょう。低温伸長性の良い品種を選択し、ハウスの開け閉め等による温度管理を適切に行い、年内に確実に収穫できるようにしましょう。

ハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生が多くなります。べと病抵抗性品種を利用している場合でも、日中は積極的に換気を行い、べと病を発生させない条件にしながら、殺菌剤の予防散布も行いましょう。

また、ハウレンソウケナガコナダニによる被害が多くなる時期です。近年は夏期に被害が見られる圃場もあり、発生が周年化しています。今年作で被害があった圃場では、早期に殺虫剤の散布を行いましょう。農薬散布は薬液が芯葉まで届くように丁寧に行いましょう。また、アブラムシ類の発生やシロオビノメイガの食害が見られます。アブラムシ類は効果の高い薬剤で防除します。シロオビノメイガの幼虫は最初、芯葉の隙間に入り込んでいるため見つけにくいので、注意して観察し、防除が遅れないようにしましょう（写真2）。



写真2 シロオビノメイガによる食害（矢印の部分に幼虫がいます）

萎ちょう病等の土壌病害が多く発生した圃場では、次年度の対策を実施しましょう。初夏に土壌消毒を行う従来の方法以外に、作付終了後の晩秋に土壌消毒を行う方法や、転炉スラグ施用による土壌管理技術があります。具体的な方法については、最寄りの普及センター等にご相談ください。

作付け終了後は、来年の施肥管理を適正に行うため、土壌診断を受けましょう。

（6）露地葉茎根菜類

ア ねぎ

最終土寄せから収穫までの日数が長くなると、品質低下につながります。10月収穫は収穫の30日前を目安に、軟白部の伸長肥大を確認しながら、気象情報等を参考にして計画的に作業を行いましょう。

また、収穫間際の病虫害発生も、品質低下につながります。早めの防除を心がけ、農薬散布は

収穫前日数に注意して適正に行いましょう。

イ キャベツ・レタス

県北高冷地の収穫は終盤です。作付け終了後のマルチ、残さの処理を適切に行いましょう。病害により収穫できなかったものは早めに処理して、被害が蔓延しないように注意しましょう。

また、来年に向けて土壌診断の実施や堆肥の施用等による土づくりを行いましょう。

(7) 冬春野菜

ア 寒締めほうれんそう

ハウス栽培では9月下旬から10月中旬までが播種時期です。県内の各地域によって気象条件が異なるので、品種の特性に合わせ適期に播種し、次のことに留意して管理しましょう。

過剰な保温により生育が進むと、寒締めを行う前に収穫サイズに達してしまいます。一方、温度が低すぎると生育が大幅に遅れ、収穫期が遅くずれ込んでしまいます。本県の寒締めほうれんそうの出荷期間は12月～翌2月が基本ですので、ほうれんそうの生育状況に応じて、適切な温度管理を行いましょう。詳しくは平成17年度試験研究成果「寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術」を参照してください。

冬期間は、大雪の影響でパイプハウスが倒壊する場合があります。寒締めほうれんそうを作付けするハウスは1棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外す等、除雪しやすい環境を整えておくとともに、雪の重みに耐えられるよう補強用支柱や番線、筋交いを設置する等の対策を講じ、ハウスを守りましょう。

イ 促成アスパラガス

気温の低下とともに、地下部への養分転流が進む時期です。台風による倒伏等で、茎葉が傷まないようにしましょう。

また、根株の無理な早掘りは収量の低下につながりますので、5℃以下の低温遭遇時間を参考に等、適期の掘り上げを心がけましょう。詳しくは平成18年度試験研究成果「アスパラガス年内どり作型における1年養成根株の掘り取り時期」を参照してください。

次号は10月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**農作業 ころのゆとりで
事故防止**

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 花き

発行日 平成30年 9月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ りんどう 今後も花腐菌核病に注意し、防除を徹底しましょう。
- ◆ 小ぎく 収穫後管理を徹底し、健全な伏せ込み苗・株を確保しましょう。

りんどう

1 生育概況

- ・ 彼岸需要期用品種は、ほぼ平年並の開花状況となり、概ね需要期に合った出荷となりました。
- ・ 病害虫の発生状況について、病気は一部地域で葉枯病と花腐菌核病が増加傾向にあります。害虫は全般に少発傾向ですが、一部地域でハダニ類やアブラムシ類がみられます。
- ・ 県南地域を中心に、晩生種で花卉の日焼け症状（通称ハチマキ症状）がみられます。

2 台風対策

幸いにもこれまで、県内の花きにおいて台風による大きな被害は報告されていませんが、収穫が終了するまでは事前・事後対策に留意します。これまでの台風対策情報を参考にしながら（「いわてアグリベンチャーネット」に過去の技術情報はすべて保存されています）、いざという時のために備えます。

3 栽培管理

(1) 残花処理

病害虫防除等を目的として、収穫後圃場の花茎除去（花の着いている茎の部分の折り取り）を行います。この作業は、花腐菌核病の防除に特に有効です。

(2) 茎葉の刈払い

刃物を使っての刈払い作業は、ウイルス病の感染を防ぐため、完全に枯れてから行います。極晩生品種では、冬まで株元の茎が枯れずに残る場合があります。その際無理して株元から折り取ると株を傷める場合がありますので、枯れた部分までを折り取って翌春に残りの茎を除去します。

また、刈払った茎葉は圃場内に放置せず、必ず圃場外で処分します。

(3) 除草

秋の除草が翌春の雑草の発生程度に大きく影響します。圃場周囲も含めて除草を行います。

4 病害虫防除

今後も引き続き注意が必要な病害虫は、病気では花腐菌核病、害虫ではアブラムシ類となりますので、継続して防除を行います。アブラムシ類は、気温の低下に伴い花から越冬芽周辺に移動してきますので、薬剤散布は株元にもしっかりと薬液がかかるようにします。

併せて、収穫終了圃場と新植圃場の防除も継続して行います。



写真1 越冬芽周辺に寄生したアブラムシ類

小ぎく

1 生育概況

- ・ 彼岸需要期用品種は、一部地域で平年よりもやや開花が遅れましたが、概ね需要期に合った出荷となりました。
- ・ 病害虫の発生状況について、病気は全般に少発傾向で白さび病も収束に向かっています。害虫は以前よりも少なくなりつつありますが、依然アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガの発生がみられます。

2 台風対策

りんどうと同様に収穫が終了するまでは事前・事後対策に留意します。

3 栽培管理

(1) かき芽苗伏せ込み

株元から発生した側芽(かき芽)を利用して伏せ込む場合は、冬至芽や株伏せ込みよりも早く作業を行います。株を掘り上げて発根したかき芽を採りますが、株に病害虫がないことを必ず確認します。とくに、本畑で白さび病またはべと病が発生した場合は、細心の注意を払います。準備するかき芽苗の本数は、定植予定株数の2～3割とします。



写真2 株からかき取ったかき芽苗

(2) 伏せ込み床の準備

かき芽苗で伏せ込む場合、遅くなるほど活着が遅れますので、速やかに伏せ込み床を準備します。排水の悪いハウスでは、平畦ではなく10～15cm程度の高畦とします。

なお、前号でも述べたとおり、長年の伏せ込み床使用によって肥料成分が土壌中に過剰蓄積し(塩

類集積)、根が障害を起こして生育不良となる事例がみられます。このような状況が確認される場合は、積極的に土壌診断を受診して処方箋に基づいた適正施肥を行います。



写真3 塩類集積による伏せ込み株の生育不良

(3) 台刈り

この時期、収穫後の株元から伸長した茎が再び開花して、そこにアブラムシ類やアザミウマ類が多発する事例がみられます。伏せ込み作業まで期間がある場合は、過繁茂対策を兼ねて地際から20cm程度を残し着花部分を中心に台刈りします。残渣は圃場内に放置せず、必ず圃場外で処分します。

4 病虫害防除

伏せ込み株からハウス内に病虫害を持ち込まないように、収穫終了後も継続して防除を実施します。

次号は10月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**農作業 ころのゆとりで
事故防止**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 果 樹

発行日 平成30年9月27日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

◆ りんご 中生種の熟度は平年並からやや早め！適期収穫・すぐりもぎの徹底を！

りんご

1 生育概況

(1) 果実生育 (表1)

9月21日時点の定点観測地点の果実生育(横径)調査結果を県平均でみると、「ジョナゴールド」はほぼ平年・前年並、「ふじ」は平年・前年よりやや大きめとなっています。

(2) 果実品質 (図1～3)

「ジョナゴールド」の果実品質は、県平均で硬度、糖度、デンプン指数ともにほぼ平年並の進捗となっていますが、県中南部・沿岸南部ではデンプンの消失が平年よりやや早い傾向もあり、現時点で熟度の進みは暦日で平年並からやや早めと推察されます。

また直近の一月予報で、10月の気温は高く、日照時間は平年並か少ない予報となっており、中生種の着色の遅れも懸念されますので、各地の普及センターやJA等が提示する情報を確認し、収穫遅れとならないよう適期収穫を心がけましょう。

表1 県内の定点観測ほ場における果実生育(横径)状況(9月21日時点)

単位:mm

市町村・地区・公所	ジョナゴールド					ふじ				
	本年(H30)	平年	比	前年(H29)	比	本年(H30)	平年	比	前年(H29)	比
農研センター	92.5	90.0	103%	89.3	104%	86.2	84.3	102%	85.1	101%
岩手町一方井	87.0	89.1	98%	83.9	104%	83.7	83.7	100%	82.9	101%
盛岡市三ツ割	88.6	88.9	100%	87.2	102%	82.5	83.2	99%	82.6	100%
紫波町長岡	86.4	88.2	98%	85.6	101%	90.0	85.7	105%	86.6	104%
花巻市上根子	83.5	89.5	93%	88.6	94%	81.1	82.0	99%	83.2	97%
北上市更木	93.1	92.4	101%	95.1	98%	92.8	86.2	108%	84.9	109%
奥州市前沢区稲置	87.3	88.3	99%	91.1	96%	83.7	85.1	98%	83.7	100%
奥州市江刺区伊手	89.6	89.9	100%	91.2	98%	85.5	81.5	105%	81.6	105%
一関市花泉町金沢	92.2	89.3	103%	93.3	99%	79.8	81.2	98%	81.5	98%
一関市大東町大原	87.8	88.1	100%	85.2	103%	83.2	83.4	100%	79.3	105%
陸前高田市米崎	91.6	88.8	103%	92.4	99%	87.0	83.0	105%	85.1	102%
宮古市崎山	92.8	91.9	101%	93.2	100%	89.0	85.0	105%	86.2	103%
岩泉町乙茂	98.9	88.3	112%	92.1	107%	89.1	84.1	106%	85.9	104%
二戸市金田一	92.3	89.7	103%	88.9	104%	91.0	85.4	107%	88.4	103%
県平均値	90.1	89.4	101%	89.8	100%	86.0	83.8	103%	84.0	102%

※ 県平均値に農研センター、洋野町大野の数値は含まれていない

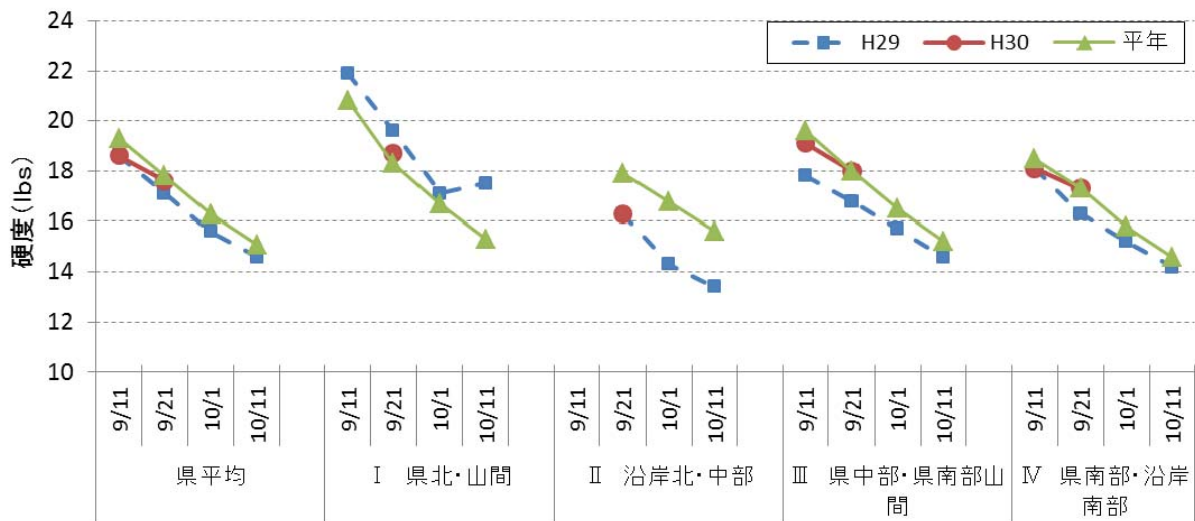


図1 定点観測地点における「ジョナゴールド」の硬度の経時変化

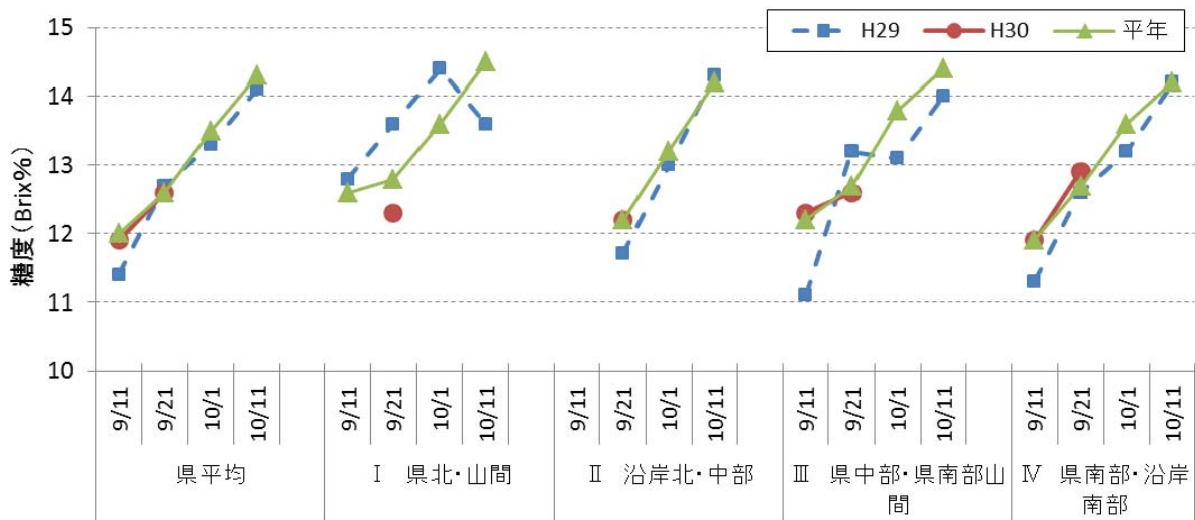


図2 定点観測地点における「ジョナゴールド」の糖度の経時変化

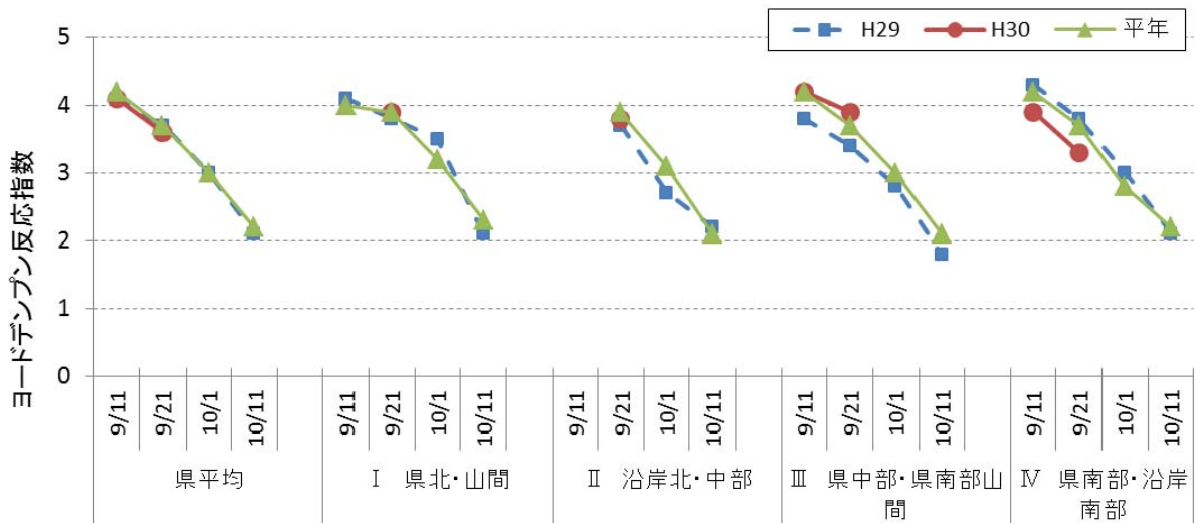


図3 定点観測地点における「ジョナゴールド」のデンプン指数の経時変化

2 栽培管理の要点

(1) 中生種の管理

- ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉回しと同時に適度な強さに葉を摘みます。
- イ りんごの着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。
- ウ 「ジョナゴールド」については、着色が不揃いとなりやすいので、徹底したすぐりもぎを行い、収穫と同時に葉摘み、玉回し等着色管理を進めます。
- エ 収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上がりが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけましょう（表2）。

表2 中生・晩生種の収穫開始期の目安

品種	満開日※	販売時期	満開日 起算日数	満開日起算 による収穫予想日	硬度 (lbs)	糖度 (%)	ヨード 指数
ジョナゴールド	5月2日		145～155日	9/24～10/4	13以上	13以上	2～3
王林	5月3日		160～170日	10/10～10/20	14以上	14以上	
シナノゴールド	5月6日	越年販売	150～160日	10/3～13	15程度	15以上	1以上
		年内販売	170日以上	10/23以降			1以下
ふじ	5月3日	2月～4月末	165～175日	10/15～10/25	14以上	14以上	1～2
		即売～3月末	175～180日	10/25～10/30			
		即売～年内	180～185日	10/30～11/4			

※ 満開日は農業研究センター観測値。

○ 収穫予想日は、満開日より機械的に算出した数値です。収穫にあたっては果実品質を確認の上、実施してください。

(2) 「ふじ」の着色管理

- ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適度な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。
- イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください（表3）。

表3 「ふじ」の摘葉が果実品質に及ぼす影響

（青森りんご試）

処理区分	果周増加量(mm)	糖度(%)	蜜の発生(%)	着色	翌年の開花率(%)
全葉の摘葉	0.74	13.6	0	3	25.0
新梢葉摘葉	3.60	14.5	31	3	58.4
果そう葉摘葉	6.85	14.9	77	4	65.1
無摘葉	7.40	14.9	86	4	66.6

（摘要）摘葉処理は10月3日～10日に行った。果周増加は10月11日～11月11日までの分。

(3) 「シナノゴールド」の収穫

- ア 年内販売の場合は、表2の収穫時期を目安に、果面にワックスが感じられるようになり、デンプン指数が1以下になったことを確認して収穫してください。
- イ 越年販売の場合は、満開後150～160日頃を目安に収穫することで、収穫後約4ヶ月の貯蔵が可能となります。ただし、満開後150日より早く収穫するとやけ病が多くなり、満開後160日より遅く収穫すると貯蔵して4～5ヶ月ころから内部褐変が見られる場合がありますので、注意してください。

(4) お礼肥の施用

樹の衰弱がみられる場合には、早生・中生品種では9月下旬以降、晩生種では10月中下旬以降からそれぞれ落葉までに施肥を実施してください。施肥量は成木で多くても10a当たり窒素成分5kgを目安としてください。

(5) 病虫害防除

黒星病で、発病葉は翌年の伝染源となるので、葉摘み作業等の際にも発病が確認された場合は見つけ次第摘み取り、土中に埋没させるか焼却するなどして処分してください。

3 気象災害対策

(1) 台風対策

10月に入っても、まだまだ台風が多く発生する時期です。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては台風の接近前に収穫可能な品種は収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策をとってください。

(2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を実施しましょう。

次号は10月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**農作業 ころのゆとりで
事故防止**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成30年 9月 27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 飼料用トウモロコシ 各地域で収穫が始まっています。刈り遅れないよう、収穫を速やかに進めましょう。
- ◆ 牧草 刈り取り危険帯の時期が近づいています。この時期は収穫や施肥を避けます。
- ◆ 獣害対策用電気牧柵 次年度設置のことを考えて撤収します。

1 飼料用トウモロコシ

- (1) 黄熟期に到達している圃場が多いと推察されますので、子実熟度を確認し、速やかに収穫作業に入ります。(収穫適期については、農作物技術情報第6号を参照してください)。熟期が完熟期に近い場合は、子実が硬く、また詰込水分がやや低くなりますので、消化率とサイロ詰め込み密度を高めるため、収穫時の切断長を10mm未満とします。完熟期で破砕処理を行う場合は、切断長19mm、ローラ間隙3mmが目安です。
- (2) 過度の刈り遅れやすす紋病、霜にあたったトウモロコシは、水分含量が低く、開封後、二次発酵が起りやすくなります。ギ酸やプロピオン酸など添加剤の使用を検討しましょう。また、刈り遅れた圃場では、カビが増殖している可能性があります。サイレージを開封するときに、カビの有無をよく確認し、給与時にはカビをしっかりと取り除きましょう。
- (3) 強風等により倒伏した場合の収穫は、ハーベスタの収穫方向をよく考え、作業機の運行速度を控えめにし、やや高刈りとするなど収穫時の土壌などの混入を避けます。また、切断長が粗くなりやすいことから詰込み密度を確保するために、十分な踏圧と早期密封に努め、発酵品質の低下を防ぎます。

2 牧草

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、短日で気温が低下してくると、越冬のために地下部へ養分の蓄積を始めます。この時期に刈り取りを行うと、牧草が再生し、養分の蓄積が不十分となるため、冬季に凍害や雪腐れ病の影響を受けやすく、越冬株数が減少するなど、翌年以降の減収につながります。

(1) 刈り取り危険帯の時期

オーチャードグラスの刈り取り危険帯は、日平均気温が5℃以下になる日から遡った約30日間となります。なお、年次や地域によって変動する場合がありますが、各地域における平年の刈り取り危険帯の目安は表1のとおりです。

表1 地域別の日平均気温(平年値)と刈り取り危険帯の時期の目安

	刈り取り危険帯 の時期の目安	参考
		平均気温が5度以下となる日 (アメダスデータより)
奥中山	10月上旬～中旬	11月10日
盛岡	10月中旬～下旬	11月19日
久慈	10月中旬～下旬	11月23日
江刺	10月中旬～下旬	11月21日
一関	10月下旬～11月上旬	11月26日

(2) 施肥

刈り取り危険帯の時期に窒素成分を供給すると、養分の蓄積が止まり、分げつや成長が始まります。この時期は刈り取りだけでなく、施肥も控えてください。また、窒素成分を多く含んだ堆肥の施用も避けましょう。

3 獣害対策用電気牧柵

飼料用トウモロコシの収穫が終わり、設置した電気牧柵を撤収する際に、来年も設置することを見越してひと工夫して撤収すると次年度の設置がずっとスムーズにいきます。

(1) 撤収器具を積極的に利用する

ワイヤーを巻き取るポビン、巻き取りハンドルを準備しておくと撤収時の軽労化が図れるだけでなく、次年度のワイヤー張り作業をスピーディに行うことができます（写真1）。ポビン、巻き取りハンドルについては各種電牧メーカーにお問い合わせ下さい。

写真1 ハンドルを装着したポビンでポリワイヤーを撤収



(2) 巻き取ったワイヤーを圃場ごとに区別する

電気牧柵を設置した圃場が複数ある場合はワイヤーを巻き取ったポビン等にどこの圃場に設置したものか分かるようにします。そうしておくことで次設置時に大幅なワイヤーの接続・延長、切断等が少なくなり、資材のムダを省くことができます。

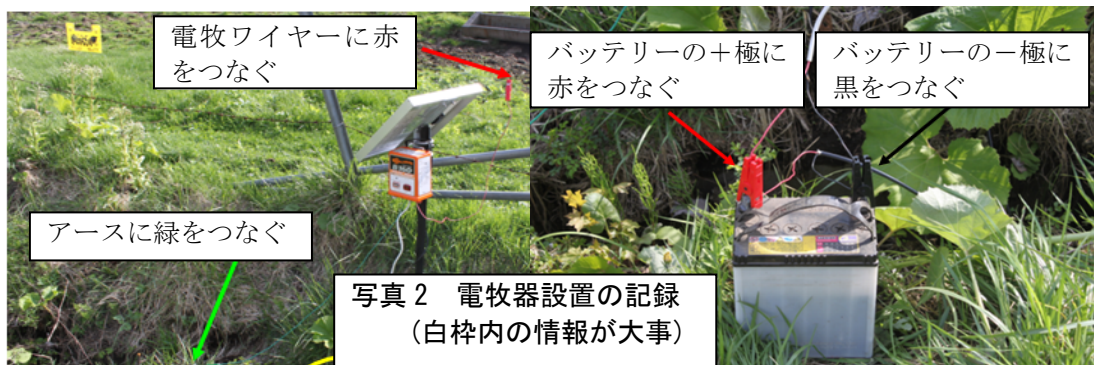
(3) アース棒に目印をつける

アース棒を抜かずにそのままにしておく場合は、次年度にアース棒のありかを見失うことがないように分かりやすい目印をつけておきます（そばに棒を立てておく、アース棒の先端やリード線に目立つ色のテープ、紐を結ぶ等）。

(4) 電牧器設置の様子を記録しておく

写真2のように電牧機の設置した様子を写真等で記録しておく（携帯電話、スマートフォンも便利）、次年度にそれを参考にすると線の接続方法など迷うことなくスムーズにできます。

以上のことを実施しておく、次年度の電気牧柵の設置にかかる労力、時間が大幅に削減できます。



次号は10月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**農作業 ころのゆとりで
事故防止**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。